開会行事

開会挨拶　長尾彰夫（大阪教育大学副学長・理事）

来賓祝辞　齋藤富雄（兵庫県副知事）

来賓祝辞　白井　文（尼崎市長）

【司　会】

ただ今より、大阪教育大学学校危機メンタルサポートセンター主催、第２回学校危機メンタルサポートセンターフォーラムを開催させていただきたいと存じます。本日、司会を担当させていただきます学校危機メンタルサポートセンターの瀧野と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。

それでは開会行事を始めさせていただきます。まずはじめに主催者を代表いたしまして、大阪教育大学副学長の長尾彰夫がご挨拶申し上げます。

【長　尾】

皆様、まだまだ残暑厳しいおりでございますが、本日は本学の学校危機メンタルサポートセンター主催のフォーラムにご出席いただきまして、本当に有り難うございます。本来ですと、学長の稲垣卓がご挨拶申し上げるところでございますが、どうしても所用のため海外出張を致しておりまして、私がご挨拶申し上げさせていただきます。

このフォーラムは今回で２回目でございます。初回は今年の３月に、さつきホールという本学の施設の中で開催させていただきました。テーマは今回と同じメインテーマでございまして、『学校危機の諸相とその予防戦略を考える』ということでございました。シンポジウムのテーマは少し変わっておりました。いずれに致しましても、本学の全国の共同利用施設でございますメンタルサポートセンターを池田小学校のあの不幸な大きな事件を契機に発足致しました。お手元にセンターの内容があるかと思いますけれども、３つの目的を掲げております。池小事件の被害者などの学校危機による被害者の精神的支援、それから学校危機と安全に関する予防及び支援の実践と研究、それから心的外傷を受けた児童・生徒の心理教育及び心のケアと実践というようなことでございます。この目的を達成すべく諸所の活動を行ってきておりますけれども、その一環として本日のフォーラムも開催されているということでございます。

学校危機の問題につきましては不幸にもと申すべきかもわかりませんけれども、益々池小事件

以降、学校をめぐる危機的な状況というものはシンコクモどうもしているかと思います。それだけかえってメンタルサポートセンターの責務或いは期待というようなものも大きいなっていくと思います。限られた時間、本日一日のことではございますけれども、どうか十分なご議論或いは意見交換をいただきまして、今後の日本の学校危機の先人的な役割をセンターと共に皆さんのお力で切り開いていただくことができればと思っております。

最後になりましたが、ご多忙中にもかかわりませず、兵庫県の齋藤副知事或いは尼崎市の白井市長さん、ご臨席いただきましてどうも有り難うございます。また、午前中の講演をしていただきます厚生労働省の山本麻里虐待防止対策室長さんには、このあとご講演をいただくということになっております。また午後からのシンポジウムにも本学のサポートセンターのメンバーは勿論のこと、色々な方々のご協力を得ております。高い所からですが、一言お礼を申し上げます。その方々のご協力を得まして充実した一日のフォーラムがもてますことを改めてお願いすると共に、メンタルサポートセンターとしても尽力いただけることと信じております。本日はどうもご協力有り難うございました。

【司　会】

本学副学長の長尾彰夫よりご挨拶させていただきました。次に本日ご来賓としてご出席いただいております兵庫県副知事齋藤富雄様よりご祝辞を頂戴致します。

【齋　藤】

皆さん、おはようございます。本日このフォーラムがあの阪神淡路大震災から10年という節目に被災地尼崎で開催されますことを大変意義深いものというふうに思っております。この地を含めてでありますが、我が兵庫県というのは何故か危機管理事案が頻発する地域であります。阪神淡路大震災は言わずもがなでありますが、昨年の台風被害もそうでありますし、0-157から高病原性鳥インフルエンザ、いずれの騒ぎにも巻き込まれますし、つい先だってはこの尼崎でＪＲの脱線事故がございました。どうしてなんだという、我々その危機管理の対応にいつも緊張した面持ちで取り組んでいるわけであります。兵庫で起きることは必ず全国で起きる。危機管理事案だけをとりましても、そういう流行というのは我が兵庫では起きてほしくないのですが、残念ながら事実はそういう状況であります。従いまして、兵庫の対応が全国の対応のいい意味でも悪い意味でもお手本になるというつもりで我々は日々対応しているわけであります。そういう対応の中で、常に私どもは感じているのですが、地震災害、台風災害、ＪＲの脱線事故、或いは食品をめぐる安全の問題、学校の生徒が関わる問題、いずれの問題も共通した危機管理の対応のベースがあります。自然災害だから違うということではない、いつでも基本的な部分ではしっかりとした共通

の対応を迫られることがあります。その１つが常に備えていなければならないということであります。危機管理が必要なことは、何かが発生した時に必要になるわけしゃないんです。正に日常、日頃がいかに大切か。この日頃の我々の心がけ、対応、訓練もそうですが、そういうものが私は非常に重要だ、全ての事案について共通して言えることの１つであるというふうに思うわけであります。もう１つが地域或いは市民・住民との連携が必要だということであります。阪神淡路大震災の時もそうでありました。あの多くの負傷者を助けたのは消防でも警察でも自衛隊でもないのです。近所の人達、その人達が８割もの負傷者を救出しました。ＪＲ事故の時もそうでした。いち早く駆けつけたのは近所の会社の社員であり、地域に住んでいる住民の人達でありました。ともすれば危機管理事案が発生する或いは発生する予測する場合、自分のテリトリーだけの対応を考えてしまう。そういう考えのもとに、どうしても対応が閉鎖的になってしまう。私は正に学校の問題はその象徴ではないかというふうに思っているわけであります。学校を閉鎖して地域住民との関わりを無くすることによって、子どもたちに対する危害が本当に無くなるでしょうか。或いは、起きた時に学校だけで危機を乗り越えることができるでしょうか。ここに大きな視点があるというふうに私は思ってならないわけです。私達行政が日常の危機管理に事案についても、正にその視点をしっかりと忘れることなく対応することを心掛けている次第であります。そのことが阪神淡路大震災から得た我々の教訓であり、その後に続いた幾つもの危機管理事案から学んだ重要な視点であります。こういう話をしたら、私は今日講演に来たわけではございませんで、お祝いに来たわけであります。時間がとても足りませんので、今日はこのあとのフォーラムでおそらくもっともっと素晴らしい講演或いはシンポジウムでパネラーの方からご意見が出ることと思いますし、その今日のフォーラムが学校の危機管理、学校のみならず地域の県民の市民の危機管理に必ず繋がる成果に結びつくという期待をしております。今日一日が皆さん方にとりまして有意義な一日となりますように、そして何よりも附属池田小学校事件を契機にメンタルサポートセンターが設立されました学校の危機ということについての取り組みが益々活発になされますことをご期待申し上げまして、私のお祝いにさせていただきます。

【司　会】

兵庫県副知事の齋藤富雄様よりご祝辞をいただきました。有り難うございました。続きまして、尼崎市長 白井文様よりご祝辞を賜りたいと思います。

【白　井】

ただいまご紹介いただきました尼崎市長の白井文でございます。本日は学校危機サポートセンター第２回のフォーラムのご開催、誠におめでとうございます。ようこそ尼崎市をお訪ね下さい

ました。開催地を代表致しまして、心から皆様を歓迎したいと思います。先程司会者の方から、この会場は素晴らしく云々とお話がございましたけれども、たぶんお聞き下さっている方は、なんで素晴らしいんだろうなと物が落ちるのにというふうに思っていただいたのではないかと思うのですが、実はこの会場は色々と変化できる会場でして、椅子が全部無くなったり、階段状になっていますけれども平らになったりできる会場ということで、便利な反面少し不便な所もございまして、大変ご迷惑もお掛けするところでございますけれども、ご容赦いただきたいと思っております。そして今日お集まりの皆様方におきましては、子供の安全と学校の危機管理に日頃から地道な活動を続けていただいておりますことも改めて心から感謝をしたいと思っております。本当に地道な活動を皆様有り難うございます。

さて今日は８月20日でございます。夏休み終了までもう10日ちょっとということになるんですけれども、私もなんとかこの長い長い夏休みが無事済んで、２学期を迎えることができますようにと心から願っている一人で、今日お集まりの皆様もほとんどの方がそう思ってらっしゃると思うんですが、実は私は今年ほど長い夏休みは無いなと思っておりまして、尼崎市も今年度『子どもの安全・安心情報ネットワークサービス』というサービスを実施することにしておりまして、携帯電話で地域の不審者情報とか警察の連携して保護者の方に発信しようという事業なんですけれども、なんとか頑張って予算を獲得してから夏休みまでに実現したいと、実は思っていたんですけれども、思いがけずシステムの構築に時間がかかりまして、夏休みに間に合わなかったんです。なんとか夏休みはその情報を頼りに子どもの安全・安心、そして保護者とのネットワークを育んでおきたいと思っていたんですけれども、それが間に合わなかったのがどうも心残りで、何もその情報ネットワークシステムが完備できたから安全ということでは決して無いんですけれども、この厳しい社会・経済状況の中で子どもたちの置かれている状況、地域の状況というのは私が申し上げるまでもなく厳しいものがございます。特にと言っていいんでしょうか、尼崎市も様々な課題を抱えておりまして、この夏休みが不安であったわけでございます。少しでも実現できること、少しでもなんとかできる手段についてはチャレンジしていこうよ、トライしていこうよということで計画していた事業だったものですから、非常に残念に思っているわけなんですけれども、なんとか今のところは大きな事件や事故というのが起こっておりませんで、これからも気を抜かずに後半戦頑張っていかないと、地域を守っていかないといけないなと思っている次第でございます。皆様方におかれましてもいかがでしょうか。いろんなチャレンジをする、いろんなトライをするという時に、「そんなことしてもどうせ駄目じゃないの」とか、「どうせ無理よ」とか、「そんなこと誰がするの」というような、そういう否定的なメッセージというのが多く聞こえてこないでしょうか。実は私も市長に就任しまして２年半なんですけれども、様々なことにチャレンジする時に、「もう前もやりましたけど駄目でした」「以前やったけど、それはできませんでし

た」「そんなの誰も担い手ありませんよ」というようなマイナスのメッセージばっかりを受け止めることが長く続きました。でも本当にそうなんだろうかと、前は駄目だったかもしれないけどもう一度やってみたらできるかもしれない、地域は変わっているかもしれないし時も過ぎてるじゃないのと、私達もいろんな経験をしているから前のままでは駄目だということも感じているよねと、だから駄目駄目と言わずにどうやったら実現できるのか、どうせ駄目だというふうに諦める前に何か一歩を踏み出そうよと、誰かがリーダーシップを発揮したらそうだねという賛同者も生まれてくるんじゃないだろうか、そういうメッセージを手前味噌ですけれども出し続けて、ようやく少しずつですけれども、やれることからやっていこうかという雰囲気が生まれてきたような気がしております。そして先程、副知事のお話にもございましたけれども、尼崎はＪＲの事故、そして今大きな課題になっておりますアスベストの問題など、様々に大きな課題が私達を苦しめております。ですけれども、地域の人達とみんなでその現実に目を背けずに真っ向から見て、私達が今の時代の私達の責任としてやれることをやっていこうよということを示していくこと、それによって私達自身が強くそして優しくなれている、そういう実感がございます。やはりみんなで何かの波、何かの壁、それを乗り越える、ハードルを一生懸命乗り越えるということがすごく大切で、苦労こそ私達にとっては一番の宝なのかなという気もしております。私が申し上げるまでもなく、現場で本当にご苦労なさっている皆様方でございますので、私以上にその実感をお持ちなのではないでしょうか。色々な出来事が起きた時に偶然ラッキーで乗り越えられるということは、私は無いと思います。ＪＲの事故でも手前味噌ですが、地域の住民の方々が多くの命を救って下さいました。「あれは阪神淡路大震災の経験があったからできたんじゃないか、すごいラッキーでしたよね」ということをコメントしていただくことがございますが、実は全然違うんです。あの地域の企業さんはあの地域の中で自主防災組織のリーダーとして、ずうっと自主的な防災活動を続けてこられたところなんです。そして地域を巻き込んでの毎年定期的な訓練をすると共に、市が補助金を出しているわけではない自主費用、自分達のお金でチェーンソーとか消火器とか様々な防災器具を計画的に買い揃え、そしてあの事故が起きた時にも食堂で全員が集まってどういう体制でどういう援助をしようかという打ち合わせをきっちりとして現場に出ていかれました。ですからあの現場にヘルメットと安全靴を履いて駆けつけることができたわけなんです。そういう意味で言うと、本当に日頃の訓練、そして繰り返し繰り返し行うこと、そして基本の徹底をずうっと継続してみんなで忘れないでおくことが、ものすごく大切だということを私は身にしみましたし、私達の町はそのことを本当に重要に感じている次第でございます。それと共に、消防の職員が50時間ぶっ続けで救助にあたってくれました。私は「消防の職員の50時間ぶっ続けで救助してたら本当に２次災害になるんだから、他の救助隊も来てるんだからそこに任せて一度帰りなさい」というふうに言ったんですけれども、「市長、あくまでも私達がメインでやらないと駄目な

んです。他の人達は一生懸命やってくれているけれども、これはやっぱり補助なんですよ。これが私達の仕事ですから心配しないで下さい。これが私達の使命ですから」というふうに私に返してくれたんです。結構私はジーンときまして、ああ人を動かすというのはお金でも物でも地位でもなくて、使命感なんだなあ、この使命感というものほど素晴らしいものはないなあと思いました。本当に使命感てこれだけ人を大きく、そしてしなやかにするのかというふうに思いました。今日お集まりの皆様もそれぞれの役割を担っている非常に使命感の強い、又使命感を持たねば活動できない方々なのではないかと思っております。今日このフォーラムを通じて、互いに褒めあい、そして互いに慰めあい、そして互いに励ましあって、これからも子ども達をそして学校をしっかりと守っていただきたいと心から願っております。今日のフォーラムが実りあるものとなりますよう、心から祈念すると共に、このフォーラムを計画して下さいました縁の下の力持ちの皆様方に感謝をして、うまく言えませんけれども私からご挨拶とさせていただきます。本日のフォーラムの開催、誠におめでとうございます。

【司　会】

尼崎市長 白井文様よりご祝辞を頂戴致しました。

尚、本日ご公務により兵庫県副知事 齋藤富雄様並びに尼崎市長 白井文様はこの段階でご退席なさいます。

それでは続きまして基調講演の方に移りたいと思いますが、準備をさせていただきたいと思いますので、しばらくお待ちください。